

会長挨拶

鳩貝 太郎



本日は全国各地から全国学校飼育動物研究大会にご参加いただきありがとうございます。第19回全国学校飼育動物研究大会を文部科学省、日本獣医師会、東京都教育委員会、東京都獣医師会、日本小動物研究会等の後援をいただき、本年も東京大学弥生講堂で開催することができました。ご支援、ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

本研究会は、平成16年7月に発足以来、研究大会を毎年開催してまいりました。また、各地での教員研修会や獣医師会の研究会の開催に協力するなどしながら、学校での動物飼育の在り方、その役割などについての実践や研究などの発表、交流を積み重ねてきました。その結果、小学校や幼稚園などで獣医師さんたちの支援をいただき、適切な継続飼育をしながら計画的な教育活動を展開することが、子どもたちの心の成長にとって極めて重要であるということが明らかにされ、そのことについての認識が着実に広がってきました。生命尊重の心を育むことが重視され、そのために生活科での飼育体験活動や道徳教育の充実が求められている今日、本研究会の活動はますます注目されてきています。

さて、今年の3月には小・中学校の新しい学習指導要領が文部科学省から示されました。教育基本法の教育の目標には「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」が明記され、教育活動全体で「生命を大切にする」指導の充実が求められています。

そこで、今回の研究大会では、大会テーマを「新学習指導要領の求める命の教育の実践」といたしました。そして恒例となっていた記念講演を取り止め、学校での動物飼育が深くかかわる生活科、道徳、特別活動の研究や指導の専門家をお招きしてシンポジウムを企画いたしました。この夏休

み中には全国各地で新学習指導要領に関する研修会が行われていますが、様々な教科や領域を横並びにして「学校での動物飼育と命の教育の実践」というよう今日的な課題について一緒に考える機会には他にはないのではないかと思います。このような企画が本日ご参加いただいた皆様にとって有意義な機会になることを心より願っております。

本研究大会では、参加いただいた皆様の交流の機会、意見交換の機会を充実させたいと考え、今回も口頭発表の方にもパネル発表の時間帯にパネルを出していただき質疑応答、意見交換ができるようお願いしました。また、シンポジストの先生方とも交流できる機会を設定してあります。さらには群馬県獣医師会の皆様のご協力により「モルモットとの触れ合い」を体験できるコーナーも設けました。

短時間ですが充実した時間をお過ごしいただきたいと思います。

最後になりますが、本研究大会を開催、運営するにあたって各地で活躍されている獣医師の皆様にお手伝いをいただいております。その他たくさんの皆様のご支援とご協力をいただいております。本研究会の活動にご理解、ご協力をいただいている皆様に改めて感謝を申し上げます。

なお、私の挨拶に続いて来賓の皆様からご挨拶をいただくことにしておりますが、文部科学省の道徳や生活科の担当である初等中等教育局教育課程課主任学校教育官の小野賢志様から以下のメッセージをいただいておりますのでご紹介させていただきます。

「ご案内をいただいております研究大会ですが、学習指導要領の全面改訂および来年度実施を控えた道徳の特別教科化に向けた研修会等が各都道府県とともにこの時期に集中して行われており、土日もなく全国にお伺いして説明をさせていただいているところです。そのような状況のため、本年度の研究大会にはお伺いすることができません。研究大会に参加された皆様にとって有意義な研究大会となり、全国の学校における動物飼育に係る学習が一層充実することを祈念しております。」

以上、私の挨拶並びに文部科学省からのメッセージの紹介とさせていただきます。

(国立教育政策研究所名誉所員／首都大学東京客員教授)